

濟南巡景

その 4

学校見学

◆经五路小学校



上段左から)「热烈欢迎」電子掲示板、校庭にある遊具、工芸創作室
下段)校舎内の植物園、卓球練習場、校舎の壁画

◆濟南外國語學校



上段左から) 正門にある凍った噴水、校長先生から学校のカレンダーをいただく
下段) 校庭グラウンドの様子、ダンス練習室

団員訪問記

- | | | |
|----|---------------------|------------|
| 1 | 中国、済南市を訪問して | 古谷 陽弥 |
| 2 | 済南との交流を終えて | 田良 芽生 |
| 3 | 5日間の旅 | 有間 仁香 |
| 4 | あっという間だった中国研修 | 上田 航 |
| 5 | 長いようで短かった中国 | 馬木 敬正 |
| 6 | 中国で過ごした4日間 | 北原夏菜子 |
| 7 | 中国での五日間 | 古谷 優季 |
| 8 | 謝謝！！済南 謝謝！！中国 | 上田 未来 |
| 9 | 伝えたい心、伝わる心 | 清水 彩 |
| 10 | 青少年交流訪問に参加して 大歳小学校長 | 藤田 辰夫 |
| 11 | 分かち合いの哲学 山口市水産振興課 | 吉松 高敏 (通訳) |
| 12 | 龍の踊る春節の中国へ 山口市国際交流室 | 眞砂 義明 |



「ホームビジット、楽しかったよ〜。」



中国、済南市を訪問して

附属山口小学校 5年

古谷陽弥

今回の訪問は私にとって初めての外国旅行で初めての中国でした。

家族と一緒にではないので新幹線の中や飛行機の中ではとてもドキドキしていました。

中国の上海浦東空港へ着いた時、(中国へ来たぞ)とワクワクしました。

パスポートを見せるためにならんでいると空港の係の人はだれもまじめな顔でほほえまず、声をかけてもニコリともしない人ばかりなのでびっくりしました。(ここは日本ではないのだ)と思ってわたしは笑顔で進みました。

わたしの一番印象に残ったことは学校訪問とホームビジットです。

二日目に経五路小学校と済南外国語学校中学部を訪問しました。

小学校はクラブ活動がさかんでみんな楽しんでいるようでした。クラブ一つ一つにりっぱな教室があって、室内に水栽培用の畑があったりしてびっくりしました。また、小学のお友達がなぜか日本語の「そうですね」を知っていて、ちょっとアクセントがちがったけど「そうですね」などとみんなで仲よく言えて楽しかったです。

先生の指示で動くのではなく生徒たちが自分たちで考えて動き、それを先生が支えるという自分たちだけで行うということを大切にしているようでした。

文化交流では、中国伝統のあざやかな服で歌やおどりをを見せてくださいました。また書道では、小学六年生がとても上手に字を書いておどろきました。

わたし達の発表の時、ドキドキしているわたしに中国の学校の先生から「がんばってね」と言われてとてもうれしかったです。



ホームビジットでは、朝ホテルのロビーでお世話になる家族と会いました。わたしがお世

話になったのは、3人家族でした。

その家に行ったらすぐに水ぎょうざを作りました。水ぎょうざは皮もすべて手作りだったのでびっくりしました。

水ぎょうざをむしている間にホームビジットの友達とゲームをしました。

わたしが一番楽しかったのは、「ジャンプ」というゲームです。初めは、負けていたけど、だんだんルールが分かって、何回か勝つことができおもしろかったです。

わたしは、日本のオセロを教えました。ルールもすぐに覚えて、とても楽しそうにやっていたのでよかったです。

食事の時、わたしは思わず手をあわせて、いただきますをしようとしてしまいました。するとお父さんがまねしてくれたので思いきって、「いただきます」と「ごちそうさま」を家族に教えたらずとも興味をもって夜食でもやってくれました。

日本のことを一つ伝えられたので、うれしかったです。

また中国と食事や習慣がちがった時、あらためて文化のちがいを感しました。

保護者からのメッセージ

今まで、「中国」という国に関心を示さなかったけれど、訪問団の一員として参加することが決まっからは、中国語で自己紹介ができるように何度も練習したり、事前研修で頂いた資料をひらいたり、とても楽しみにしていました。

また、事前研修が進んでいくにつれ、山口市を代表して訪問する意識が芽ばえ、文化交流の準備も真剣に取り組むようになりました。

中国では、同じ年代の友達と交流ができ、また日本との文化や生活習慣の違いを体験することができました。「また外国へ行ってみよう」と日本の外に目を向けることができるようになったと思います。温かく迎えて下さった中国の方々、また山口市国際交流室の皆様へ感謝申し上げます。



済南との交流を終えて

上郷小学校 5年

田 良 芽 生

私は、はじめて中国にいきました。いままで、家族となら海外にいったことがあるけれど、家族以外で、海外にいくとなれば、さすがに、少しは、こわかったです。

私は、1日目、飛行機の中で、えらくなって、ホテルについて、熱（体温）をはかったら、この年はじめての9度以上の熱が出ました。けど、2日目の朝には、さがって、けいごろ小学校と、済南外国語学校にいけました。

けいごろ小学校には、卓球の記録があって卓球をするへやがあって、そこで自分たちもやらせてもらいましたが、いがいとむづかしくて、あまりできませんでした。けど、楽しかったです。私たちは、交流団として、来たので、日本の文化交流をしました。まずはじめに、けいごろ小学校の方からのひろうがあって、そのつぎに日本からのひろうをしました。内容、1. ラジオ体操、2. 応えん合せん、3. 世界に一つだけの花です。

そして、さいごに3つのグループにわかれて、習字、茶道、着付をしました。私は、その中で、習字のグループのリーダーになっていて、「夢を追う」と書きました。ほかに、清水さんは、「交流」、上田くんは、「ともだち」と書きました。とてもたのしかったです。

そのつぎに、済南外国語学校に行きました。その学校は、中学校で、学校のいり口のふん水が、氷の山になっていました。そしてその学校でも、文化こう流をしました。

そして3日目は、ホームビジットでした。

私の相手の人は、同じ小学5年生で、英語がとても上手でした。けど、通やくの人が、あまり日本語がはなせなくて、自分自身、中国語の本をもっていけばよかったと、うすうすこわいしています。けど、その子がジェスチャーがとてもとくいで、話は、わかりましたが、へんじができないのがつらかったです。

そして私は、そのこの家で、ギョーザをつくりました。そして、はくぶつかんへいきました。とてもたのしかったです。

そして、済南を出る日がやってきました。

4日目です。その日は、飛行機にのって、上海に行く日でした。そして、飛行機にのって、上海に行っていると、と中で、なんきん空こうに、ちゃくりくしました。そして、3時間ぐらい飛行機の中でしたけどふじに上海につきました。そして、上海のお茶やさんや、おまつりっぽい所にいきました。

そして、4つ星☆☆☆☆ホテルにとまりました。ホテルは、すごく高い所までつづいていました。そして、つぎの日、上海をとびたちました。そして、たのしかった中国生活もおわりました。

私は、この交流団にさんかできたのは、まさごさんや、藤田校長、など、いろいろささえて下さった人々に感謝したいです。

まさごさん、このメンバーでまた行きたいな。



保護者からのメッセージ

中国から帰国後は、やはり会話の中に「中国だったらこうだった」や「日本はこうだ」など、本人の中の世界の幅が広がったと思います。

ホームビジットで一緒に過ごしたお友達とうまく会話が出来なかった事も、本人は残念がっていますが、言葉というコミュニケーションツールを今後学んでいく上で、大切な体験になったと思います。なによりこの交流を通して年代や学校の違う日本の仲間、国の違う友達ができた事が良かったと思います。



5日間の旅

阿知須小学校 6年

有 間 仁 香

私にとって、この訪問は初めての海外、初めての中国でした。研修や準備をしながら楽しみにまわっていました。

私が一番印象に残っていることは、ホームビジットと学校訪問です。

2日目に行った学校訪問は、経五路小学校と外国語学校です。2校とも、私達を歓迎してくれました。すごくうれしかったです。

経五路小学校で、文化披露の時抹茶を立ててあげたけど、中国の人達には、苦かったようでした。でも、甘い和菓子は、気に入ってくれたので良かったです。経五路小学校の人達は、おどりを見せてくれたり、竹を使った遊びをさせてくれました。どれも中国らしくて、楽しかったです。

外国語学校では、日本語を習っている人達と交流しました。みんな日本語がとても上手でした。外郎のプルプルとした食感にはおどろいていたけど、おいしそうに食べてくれたので良かったです。外国語学校の人達は、おどりや演奏をしてくれました。中国の楽器を使った演奏を聞かせてくれました。リズム感が良くすてきな曲でした。

3日目はホームビジットでした。私は宮さんという家族に会いました。

最初に博物館に行きました。博物館では、中国の神様や、昔の物が展示されていました。仏像や土器のような物など日本と似たものもあり、とても勉強になりました。

次に、家に帰ってぎょうざを作りました。ぎょうざ作りは、皮から作り、具は野菜が多く味のついたひき肉を混ぜたシンプルなものでした。具の包み方



は、私が知っているものとはちがいで、さすが中国だなと思いました。グット！と言われたので、うれしかったです。みんなで作ったぎょうざは、水ぎょうざにして、おいしく食べました。

午後からは、家でんびりしました。中国のテレビ番組を見たり、ゲームをしてすごしました。テレビでは、コントのようなものを見ました。私は、中国語なのでよく分からなかったけど、みんな笑いながら見ていたので、おもしろいだろうなと思いました。そんなみんなを見てみると、日本のお笑いが見たくなってきました。

はじめは、きんちょうしたけど、5年生の梓怡ちゃんと仲良くなれ、楽しい1日をすごすことができました。私をあたたかく受け入れた、済南の家族に感謝します。

他にも、この5日間で、書ききれないほどたくさんの思い出ができました。おどろいた事や、大変だった事、様々な体験ができました。この貴重な体験をこれからの自分に生かせたらいいなと思います。そして、何よりこのきかくを作ってくれた方、5日間、一緒にすごした仲間感謝します。私はこの訪問で、中国の友達もできたし、日本の仲間と共に楽しい5日間をすごす事ができました。とても良い旅となり、一生忘れることのない良い思い出となりました。

保護者からのメッセージ

山口市青少年交流訪問団に参加させていただきありがとうございました。

応募するまでと、実際に研修が始まってからも、初めての事が多く、不安と心配の中、娘本人は、ケロツとして何よりも楽しみに出発の日を迎えたので、逆に励まされた思いで、安心して帰国を待つ事ができました。

新しい仲間と一緒に中国の文化を全身で受け止め、吸収し、体験した全てが娘をひと回り成長させてくれた5日間だったように思います。

一生忘れることの出来ない体験をさせて頂き、感謝しております。



あっという間だった中国研修

嘉川小学校 6年

上田 航

1日目～出発の日、新幹線口の前で出発式をして、中国訪問団の研修がスタートしました。新幹線改札口を出る時には、お母さんとお父さんと別れるのがさびしかったです。でも、馬木君や上田君など先輩が助けるとの思い、気持ちが研修モードになりました。福岡空港に着きゲートをくぐると日本でも外国でもない所に着きました。そこに売ってある物は、すべて税がついていないそうです。飛行機に乗ると、座席は校長先生と清水さんの横だったので、安心しました。飛び立つ時のフワとした時がこわかったです。上海に着くと1時30分くらいでした。そこから日本食のお店に行ってお昼ごはんを食べました。おいしかったです。そこからまた飛行機に乗って済南空港まで行きました。無事に目的地の済南市に着くことができました。夜ごはんは中国料理でもおいしかったです。

2日目～2つの学校に、学校訪問に行きました。1つ目の学校は、済南市にある経五路小学校です。全クラス49クラスで、全校生徒が約2,600人です。ここでは、文化披露をしました。最初に経五路小学校から披露してもらいました。中国茶を入れてもらったり朝にやる体操などいろいろ見る事ができました。次は自分達の番です。ぼくたちは応援をしました。ぼくは応援団長をしましたが最初はきん張してかちかちでした。でもみんながのってくるとうまくできました。2つ目の学校は外国語学校です。この学校は、小・中・高と全部の学校がそろっており、この学校を卒業すると大学にも入りやすくなるそう



です。そこでも文化披露をしました。司会者が日本語で司会をしていたので、びっくりしました。帰りには、地下のスーパーで買い物をしました。物が安いと聞いていましたが、本当に安かったです。お土産には、ひまわりの種を買いました。9元でした。

3日目～この日の主な活動は、ホームビジットです。知らない家族と夜まで過ごすと思うとときどきしていましたが、ロビーで出合ったしゅんかんホームビジットをする家族のお母さんが「ニーハオ」とあいさつをしてくれたので、気が少し楽になりました。その後、近くの「ホウ突泉」という所につれていてもらいました。お昼ごはんはレストランで食べ、趙君の家に行きました。夜ごはんは水ギョーザをみんなで作って食べました。あっという間に一日が過ぎました。

4日目～上海のホテルに移る日、飛行機がと中、きりのため緊急着陸し2～3時間おくれがでたため、上海で予定されていた事がゆっくりできませんでした。その日、一番大きな買い物をしました。それは、60元もする中国の紅茶を買ったからです。4つ星ホテルだったので、きれいでした。

とても楽しい4泊5日でした。もっと長く中国にいたかったです。

保護者からのメッセージ

外国への旅が航にとって初めてだったので、親としてはかなり不安でした。本人は楽しみで仕方ない様子でしたが、日本と違い治安が悪く、空気も汚いし、食べ物も不安で、何といたってもパスポートをきちんと管理できるか、ほんとうに心配でした。

無事日本に着いたという連絡があった時は心から安心しました。とにかく楽しい5日間だったようで、航にとって中国がとても身近な国になったようです。帰国して、小学校では担任の先生が時間を作ってください、中国での体験を写真をまじえながら発表したそうです。クラスの友達もまた、中国に興味をもってくれたようです。引率して下さった藤田校長先生、真砂さん、吉松さんほんとうにありがとうございました。大変感謝しております。



長いようで短かった中国

白石中学校 1年

馬木敬正

僕はこの旅を通して、多くのことを学び体験しました。

まず初日。初日は山口から済南への移動がほとんどでした。

二日目は経五路小学校と済南外国語学校で日本の文化を披露しました。

経五路小学校では、学校を見学して、小学生が発明して特許もとったという「ペンとしても使えて、USBメモリーでも使える物」を見せてもらい、本当に小学生が発明したのかと疑いました。そして日本と中国との差を感じて将来が少し不安になりました。他にも植物が100種類以上ある部屋や野菜を栽培している部屋など自然がある部屋も見れました。卓球もやらせてもらいました。僕は小学校4年生から6年生まで卓球をやっていたので、少しはいい勝負ができるかなと思ってやってみたらこてんぱんにやられました。文化交流では中国茶をはじめとする中国文化を披露してもらいました。また中国のラジオ体操は日本のラジオ体操とは比べ物にならないほど激しい体操でした。

済南外国語学校ではまず生徒の人数が約7,200人だったのには驚き声もでませんでした。食堂も3階立てでした。済南外国語学校での文化交流でまっ茶をたてて、飲んでもらって渋い顔をされたのが印象に残っています。

三日目は1番楽しみにしていたホームビジットでした。僕のホームビジット先には山口に4年間留学したというお兄ちゃんがいたため、言葉にはまったく困りませんでした。最初は泉に行き、その水が飲めるというので飲んでみました。みんなは甘いといっていたけれど僕は少し薬の味を感じました。その後大明湖に行きました。大明湖ではもう1人のお兄ちゃんが焼き芋を買ってくれました。中国の焼き芋は日本の焼き芋よりずっと黄色でした。



その近くに日中の友好のあかしともいえる木で写真を撮りました。昼食は北京ダックでした。本場ということもありとてもおいしかったです。家では凧をもらい早速あげにいきましたが、風がなかったのであがりませんでした。夕飯は水餃子だったので手伝おうとしましたが逆に足手まといになってしまいました。夕飯で僕は中国の人は乾杯が好きだと感じました。理由はよく乾杯するからです。

四日目は上海空港に行く途中滑走路が凍っているため南京に緊急着陸して約2時間ずっと待機でした。その後上海の豫園では元宵節という祭りでいろいろな形の灯籠があり、中でも龍の形と鳳凰の形をした灯籠が印象に残っています。また僕はそこで56元の品を40元に値切ることに成功しました。

五日目は上海空港で四時間待ちというアクシデントに見舞われながらも帰国できました。

僕はこの訪問団で多くの初体験をしました。これを次のステップに生かせるようこれからも日々努力していきたいです。

保護者からのメッセージ

帰国後子供がこの旅行で一番不安だったホームビジットが最高に楽しかったと話してくれました。

ホームビジットでは、まず観光地の泉や大明湖公園を巡り遊園地に行ってゴーカートに乗り訪問先の自宅では卓球、凧上げ、マンションの敷地内にある健康器具での運動、餃子作り、さらには花火の打ち上げにスリル満点だった爆竹鳴らしと短い時間ながらさまざまな体験をした様でした。そして、御家族と食事をし話があうと中国式の乾杯をするというにぎやかな食事を通して交流が深まりおもしろかったそうです。

また、この旅行前に一夜漬けて覚えた中国語「这个很好吃」「請給我便宜点儿」を片言ではあるけれど使い通じたとうれしそうでした。外国語が通じたときのあの手応えは体験してみないとわからなかったと思います。

きっとこの旅行はこの子にとって一生忘れられないものになったことでしょう。

この機会を与えて頂き本当にありがとうございます。



中国で過ごした4日間

附属山口中学校 1年

北原 夏菜子

わたしが、以前まで思っていた中国全体のイメージは、人は冷たいし言葉は通じないし日本の商品はマネするしと、ただ広く人口が多いとだけのイメージでした。

この訪問団に応募した理由は、まずあの世界地図を見たときに目につくあの広い土地。それとわたしのイメージが本当にあっているのか、もしかしたら間違っているかもしれないと、わたしの中国のイメージを確かめてみたかったから。それから山口のことを中国の人々にしてもらいたいと思ったからです。わたしの住んでいる山口市は人が温かく、全国にはあまり知られていませんが、歴史が深いところなどもあり、とても良い町だと思います。

中国に行ってみたら、まず大きい空港。山口…日本の大きな空港よりも何倍大きいんだろうと、目をうたがいました。空港だけじゃありません。町全体が大きい。あとこの大きさにまけず人が多い。さすが世界第一位の人口数、驚きました。

小学校に行くと、

「ここは大学か！！」とツッコミをいれたいくなるぐらい大きかったです。中に入ってみると外見にまげずおとらず部屋がいっぱいあって山口市の市民会館のようなホールがあり、春休みだというのに訪問団のためにお茶をいれてくれたり、ダンスをおどっ

てくれたり、

「なんて温かい人たちなんだ」と感動しました。

三日目はホームビジットにテンテンちゃんと湖にいったりお家にいったりしました。湖では灯籠がたくさんあり、昔の作詞家などの歴史を体験できました。テンテンちゃんのお家では親せきが集まって人気のアニメや日本の動画などを見て、とても楽しかったです。

四日目の上海では、大きなビルや、夜の町などを見学しました。お茶屋さんに行って、色々なお茶の種類や作用なども学び、お茶に少し興味がわきました。大きなビルたちは、どれも光って、とてもきれいでした。

今回の訪問団で学んだことは、これからの自分に大きく役立つことだと思うので、大切にしていきたいと思うので、また、このような機会があったら参加していきたいと思います。



保護者からのメッセージ

今度の青少年交流訪問団に娘が参加出来たことに感謝致します。

出発前は交流団としての責任を果たせるのかと不安でしたが、帰国して写真や話を聞くうちに（行かせて良かった）と思いました。

済南市での学校訪問での体験、歴史遺産の見学や生活習慣の違いを学び、特にホームビジットでの辛さん宅への訪問でとてもご家族と仲良くなれたことが嬉しかったようです。

日本の何倍も大きな中国の中の済南市と上海市。同じ中国でも異なる風土に触れ、刺激になったようです。

短い5日間でしたが、娘がたくましく思えました。



中国での五日間

附属山口中学校 2年

古谷優季

今回は私にとって初めての外国への旅でした。待ちにまった出発の日。慣れないスーツケースを転がしながら新山口駅へ向かいました。

飛行機の窓から見た中国の景色は一面畑が広がっていました。ビニールハウスがたくさんあり、これは郊外なのかなと思いました。

飛行機を降り空港を出ると日本とはちがう空気の味がしました。バスで上海虹橋空港へ向かう途中では建設中の高層マンションが目立ちましたが、そのすぐ近くには人の住んでいる壊れかけた家々も見られました。

済南空港では通訳の祝さんと学校訪問をする経五路小学校の先生方が出迎えてくださいました。私達のことを歓迎してくれる人がいることは幸せなことだし、とてもうれしかったです。

2日目は訪問のメインの一つでもある文化交流の日でした。午前中は経五路小学校、午後は済南外国語学校の訪問です。どちらも共通して言えたことは学校の設備が整っていることです。先生の説明を聞いていると生徒が自分で考え、活動するということ大切にされているようでした。文化交流では歌や踊り、書道などを披露してもらいました。私達のステージでの発表は応援合戦とラジオ体操、「世界に一つだけの花」をリコーダーの伴奏で歌うことです。私は茶道の担当で抹茶をたてて飲んでもらいました。抹茶はやはり中国の人には苦かったみたいで一口で満足していました。もっと茶道のお手前を伝えることができたならよかったのですが私の勉強不足もあり、思うようになりませんでした。でも次の外国語学校ではお茶の飲み方を教えることができたと思います。

その日の夜は食事会でした。中国での食事はほとんどターンテーブルです。本場の山東料理を毎日食べることができて幸せだったし、文化のなかで「食」は大きな割合を占めるものだなと思いました。



3日目は私が一番楽しみにしていたホームビジットの日です。私の受け入れ先の家族はご両親が医師でした。市内の泉を見て回り、昼食からお父さんと親せきの方も合流して7人で食事をしました。食堂の料理はホテルの料理よりおいしかったです。家に帰ってからは5才から習っているという中国の伝統的な踊りを見せてもらいました。自分の国の踊りが踊れていてうらやましかったです。その後自分の部屋を案内してもらい、教科書を見せてもらって驚きました。英語の教科書はページ一面に英文が書いてあるし、算数も6年が習う内容とは思えず、日本だったら中学一年生が習う内容がたくさん載っていました。だから中国の学力はどんどん伸びてきているのだと痛感しました。私達も負けてはいられません。

最後の日は(もっと中国にいたい)という気持ちで一杯でした。私は今回の訪問で自分の視野を広げるということを目標の一つとしていました。自分なりに達成できたと思います。中国の教育の充実さや日本にはない中国のパワーを肌で感じ、学ぶことができました。私が中国で体験したことはこれからの生活に大きく影響してくると思います。これを機に今より日本の文化に興味を持ち、もっと中国語の勉強をして再び中国へ行くことが夢になりました。

保護者からのメッセージ

「外国へ行ってみよう」が志望動機でこの度の訪問団に参加させて頂きました。

学校訪問では、学校の施設がとても充実していたことに驚いていました。

ホームビジットでは、小学6年生のお宅に受け入れて頂き、英語の教科書が自分達が習った中1より、少し難しい内容で、中国での取り組みが日本より進んでいるように感じていました。

成長著しい中国を自分の目で見て、肌で感じると同時に、日本を外から見る事ができたようです。

また、一緒に参加した団員にも恵まれ、非常に仲が良かったようでとても楽しい心に残る研修になったと思います。温かく迎えて下さった済南市の方々、山口市国際交流室の皆様にお礼申し上げます。



謝謝！！ 濟南 謝謝！！ 中国

白石中学校 2年

上田 未来

今回の訪問に参加して、たくさんのことを体験し、学ぶことができました。5日間が長いようで、とても短かったです。

その中で一番心に残った出来事は、済南市でホームピジットをしたことです。初めは少し緊張してしまいましたが、笑顔で接してくれたので、とても楽しい充実した日を過ごすことができました。

一緒に、済南市にあるテーマパークに行きました。紙芝居を聞きました。中国語は理解できませんでしたが、おそらく「桃太郎」だったと思います。テーマパークには、人がとても多かったので、写真を撮ることも困難でした。

昼食を終えて、家で囲碁をしました。相手は英語で会話をしてくれたので、だいたい理解することができました。笑いすぎて、腹筋がいたくなるくらい楽しかったです。

遊んだあとは、誕生日のケーキを食べました。2月4日が彼の誕生日だったので、「happy birthday」と、言葉を送りました。中国のケーキのクリームは緑色や紫色といった日本ではあまり見ることのない色合いで驚きました。味は日本のと同じ位おいしかったです。

また、餃子を作りました。初めは、おばあさんが手本を見せてくれて、その後作りました。ここでは、中国の人の親切さを感じました。みんな餃子を作るのがあまりうまくなくて、笑いが飛び交いました。でも、自分たちが作った餃子はとてもおいしかったです。

お別れの時、メモリースティックと手紙をいただきました。「この中には、写真が入っているから。」

と言われました。短い時間でしたが中国の初対面の人とも気軽に会話ができて、心を通わせることができました。



きました。

別の日程の文化交流では小学生の子供達に、ラジオ体操をしてもらいました。体操の間は、常に声を出していました。終わったあとには、みんな息が荒がっていました。とてもテンポが速くてびっくりしました。

その他に、中国伝統の竹を使った遊びをしたり、茶道、書道といったものを見させてもらいました。中国はすべて漢字なので、書道での漢字は、とてもお手本になりました。

僕は、家族と一緒に数回中国に行ったことがありましたが、今回は、初対面の人ばかりでの旅を経験し、コミュニケーションをとれという面で、心身ともに成長することができました。また、外国でコミュニケーションをとるのはいつも父だったけれど、今回は自分1人しかいないので、スーパーに行ったときも、相手に伝えようと努力した自分をほめてあげたいです。「相手に自分の意志を正確に伝える。」という弱い部分が少し克服できました。

最後に、一緒に同行して下さった藤田校長先生、真砂さん、吉松さん、大変お世話になりました。そして、謝謝！！中国。

保護者からのメッセージ

どちらかと言うと、おとなしい性格の息子ですが、現在反抗期でもあります。

初対面の友達との旅行であり、国際交流も上手くいくのか心配していました。

しかし、5日間はとても充実していたようで、「もう1泊したかったなあー。」と話していた時には、参加させてよかたと思いました。

たくさんの人に支えられて、助けられて国際交流の旅ができたことを学んだ5日間だったようです。日頃の生活から少しリフレッシュ(?)できたのか、反抗も少し減ったような気がします。お世話になりました藤田校長先生、国際交流室の方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。



伝えたい心、伝わる心

野田学園中学・高等学校 3年

清水 彩

今回の訪問は、私にとって人との関わり方を含め、たいへんいい勉強になりました。

印象深かったことはやはり文化交流とホームビジットです。文化交流では中国の茶道・書道・歌・楽器演奏・踊りを披露してもらいました。どれも全部興味深かったのですが、中でも済南外国語学校での笛の演奏が心に残りました。曲がとてもリズムカルで、指の動きが速くて関心しました。私達のためにたくさん練習してくれたのだろうなとうれしくなりました。

私達が日本文化として披露した茶道・浴衣の着付け・書道・運動会の応援は喜んでもらえたと思います。

私は書道の担当だったのですが、あまり人気がなかったのでひらがなを書くことにしました。『ゆめ』『りゅう』『ともだち』『ありがとう』という文字です。すると、何人かが見に来てくれて「あ、ひらがなだ」と面白そうに話していたので、それをプレゼントすると、「謝謝」と言ってとても喜んで友達に自慢しながら見せていました。日本独自のひらがなが知られているのだと思って、中国の人にすごく親しみを感しました。

ホームビジットでは杜安然さんのお宅で大歓迎を受けました。とてもうれしかったです。市内の名所を案内してもらってから家を訪問し、中国伝統の遊びを教えてもらったり、折り鶴やバドミントンで遊びました。それからぎょうざ作りをしました。今までやったことはあるのですが、最初はうまくできま



せんでした。でもだんだんできるようになり、ふと気づくと安然さんがグーサインを出していました。とてもおいしい水ぎょうざでした。忘れないうちに、自宅でぎょうざを作ったのですが、すごく上手になったと父母からほめられました。

中国滞在中、言葉があまり通じないときもありましたが、ジェスチャーや表情でコミュニケーションをとることができました。私達は普段言葉というもののとても頼っているけれど、伝えたいという心があれば言葉がなくても伝わるんだと感じました。

もう一つ印象深いことと言えば、中国と日本では気持ちの伝え方に少し違いがあると感じたことです。

例えば相手を立てる場合、私達は自分を謙遜（けんそん）することでそれを表現する場合がありますが、中国の人は気持ちをストレートに伝えて相手を立てているようです。相手を思いやる気持ちはどちらも同じ、そこが、面白いところだと思いました。

訪問を終えて、私はもっといろいろな人と出会って様々な見方・考え方に触れたいと思うようになりました。

言葉は通じなくても心があれば伝わる、と感じたこの五日間のように積極的に人と触れあっていきたいです。

保護者からのメッセージ

リーダーとして自ら手を挙げたとき、我が子に対して、一抹の不安とみんなのためにそして、自分のために「頑張れよ」と背中を押す気持ちとが重なり、ただでさえ、初めて海外へ送り出す心配が倍増したのを覚えております。

延べ3ヶ月に及ぶ研修と、実際に中国での全く未知の文化や現地の方々とのふれあいを通して、ひととしての優しさやいたわり、分かり合おうとする理解の心が芽生えたと感じております。

今後の彼女の人生において、きっと役立つ、素晴らしい経験をしてくれたものと思います。

濟南巡景

その 5



まらの様子、研修会の様子



1	2	3
4	6	
5		
7	8	9
	10	11

- 1 研修1回目 濟南の友人に紹介する顔写真の撮影
- 2 研修2回目 日本文化披露の出し物をみんなで考えました。
- 3 研修4回目 茶道の練習をしました。
- 4 研修5回目 応援の練習は、体操服、はちまき、紅白の扇子で。
- 5 事後研修 14ページからの訪問記をみんなで作成。手書きです。
- 6 濟南空港で経五路小学校の先生の出迎えを受けました。
- 7 濟南市の芙蓉街の入口
- 8 泉城広場はとても大きく、地下はスーパー、買い物をしました。
- 9 濟南市内の様子（ホテルの窓から）
- 10 上海市でお茶の接待をうけました。
- 11 上海市の豫園は、とってもにぎやかでした。

青少年交流訪問に参加して

山口市立大歳小学校長

藤田辰夫



2月2日から6日まで4泊5日の中国山東省済南市の交流訪問を無事終えることができた。今回の訪問団募集には多数の児童生徒が応募し選考をすることになったが、選に漏れた児童生徒には気の毒な思いをさせた。それだけに選ばれた子どもたちにはその任と自覚を持って参加することが求められた。

済南市の子どもたちとどのように交流をするのか、日本の紹介をどうするのかなど、打ち合わせは困難を極めた。何回か研修会を持つ間に、それは徐々に形を見せ始め、最終的には子どもたちの気持ちも一つになり、済南市では見事にその成果を発揮してくれた。

経五路小学校の訪問では、中国の多彩な出し物を見せていただいた。山口の子どもたちもリコーダーや歌などを披露した。文化交流では、浴衣の着付け体験をして、中国の子どもも親も大変喜び、盛んにシャッターを切っていたのが印象的であった。続いて訪れた済南外国語学校では、噴水が凍り付き巨大な氷が出来ていたのにはびっくりした。寒さの厳しさを実感した。ここでの交流は、二胡や笛の演奏を聴いた。そのテクニックのすばらしさに感動した。日本の文化交流では、茶道の体験が人気を集めていた。外郎を食べ抹茶を飲む代表の生徒を、大勢の生徒が取り囲んで興味深く見つめていた。日本語ができる生徒たちなので話しかけたり質問したりしていた。子どもたち同士の友好交流は大変成果をあげたと思う。

訪中期間が、春節開けの1週間後だったのでまだその余韻が残っており、華やかな飾り付けが多々あった。夕方から夜にかけ有名な「ホウ突泉」あたりを散策したが、子どもたちもその鮮やかさに目を奪われていた。伝統的な行事が見られるいい時期に訪問することができたと思った。

訪問中何回か食事をしたが、済南の野菜のおいしさは格別であった。すべての食事をおいしくいただいた。「なまこ」料理が何度も出たが、中国では高級食材らしいがこれには少し閉口した。子どもたちは、最初から最後まで食欲が落ちることなく出されたものをすべて「おいしい。」と言って食べていた。国際交流の基点は、食事であると思っていたので、子どもたちの姿には大変感心をした。

最後に、このような企画をしていただいた渡邊市長を初め、旅程から現地のお世話までしていた

いただいた国際交流室真砂義明室長、通訳のみならず子どもたちに様々な交流体験をさせていただいた吉松高敏氏に感謝申し上げたい。また、現地通訳の外事弁公室の祝氏は、私自身来日中に親交があったので、細事に心温まる対応をしていただき、心からお礼申し上げたい。子どもたちはこの体験をこれからの生活に是非活かして欲しいと願っている。それが何より訪中させてもらった感謝になると思う。



分かち合いの哲学

山口市水産振興課（通訳）

吉松高敏



中国の友人と会ったときに、経済格差の話になった。どちらの国の格差が大きく感じられるか、比較した数値もないので分からないが、お互いがお互いの国に経済格差が広がりつつあることを実感していることじたいはどれも真実のようである。

ハプニングがあった。

済南から上海行きの飛行機が、悪天候のために南京に緊急着陸となった。私はかつての中国を予想した。が、意外だった。その飛行機の中で、乗務員にかみつく人はいなかったのだ。ただ整然と運行の再開までの2時間あまりを機内でひたすら待っていた。信じられなかった。こんな事態はここだけかと思っていたが、上海の有名な小籠包の店の前で、中国人観光客の行列が整然と延びていた。

そのとき私には孔子の声が聞こえた、“小人窮、斯濫矣（小人、窮すればここに乱る）”と。孔子のいう“小人”とは“君子”ではない人間のことであるが、君子とはつまり文明人のことであろう。その飛行機の中にも、上海の有名店の行列の中にも“小人”は見あたらなかった。

中国は、経済的に豊になったことで、自らの誇りとかつての偉大な文明を担った子孫としての感覚を取り戻してきている。

そういえば、諸葛孔明が慕った人物に管仲という人がいる。戦国時代の齊の国の宰相であった彼の

著作『管子』に、“倉廩實、則知礼節、衣食足、則知榮辱（倉廩実つれば礼節を知り、衣食足らば榮辱を知る）”と。

いわゆる“衣食足りて礼節を知る”のもとになったことばであるが、もはや今の中国はかつての中国ではなく、今の中国人はかつての中国人ではない。一歩先を進んだ真の文明人になりつつあるのだ。

「自分で考える」、「自分で決める」はこれからの世の中のキーワードである。「なんでですか」と安易に聞くのではなく、「どうしてなのか」と自分で考えなくてはならない。できれば、日本と2000年という長いつきあいのある中国の古い友人とともに、分かち合える未来を考えたい。



辰年生まれのしし座男子は、 龍の踊る春節の中国へ

山口市国際交流室

眞 砂 義 明



2月2日 語学力とコミュニケーション力は、通用するのか。市の代表として参加する責任感を備え、尊敬されるべき態度をとれるのか。正直、中国という異郷の地へ派遣させることの大変さを想像し、「旅のしおり」はこれまで以上に気合を入れて作った。初日から山東料理はぐいぐい胃袋に沁みた。白酒で3度の乾杯は、熱烈歓迎のおしるしでした。明日の文化披露に備え、男子の部屋で応援の全体練習。済南の夜はこうこうと更けました。

2月3日 責任感と使命感は、世界の中でも一番でありたい。協調性と柔軟性はわれわれの得意とするところ。学校見学はとても刺激的で、急遽開催された日中卓球選手権は、経五路小学校の圧倒的な強さに完敗。でも、応援合戦、ラジオ体操、浴衣の着付け、書道、茶道で日本文化をしっかりと伝えました。

2月4日 チャレンジ精神は、芽生えた。ホームビジットの朝、迎えに来てくれた経五路小学校、済南外国語学校のみなさんがとても温かい笑顔。成功を直感。午後8時、ホテルに次々に帰ってくる子供たちは笑顔、笑顔。かたい握手を交わし、抱き合い、アドレスの交換をし、記念写真を撮り、そして中国済南市に、もう一つの家族ができたようでした。

2月5日 異文化に対する理解は、努力しているつもりで、緊急事態にも冷静でいようと心の片隅で思っていたのですが、さすがにあわてました。済南発上海行きの飛行機は、突然行き先を変更して南京空港へ着陸しました。機内で提供されたカレーライス（または焼きそば）は、やっぱりおいしく感じた。その後無事に上海へ到着、春節で大混雑の豫園を見学。

2月6日 飛行機の出発が3時間以上遅れるアクシデント発生。初めての中国、日本への帰国が延びるかもしれないという、不安。携帯電話で国際電話をかける。そこでも救われたのが、慌てず、騒がず、冷静に行動してくれた訪問団のみんなです。いい仕事ぶりでした。

新山口駅の改札口の向こう側に、保護者の皆さまの温かいお迎いの笑顔が見えた時、腰が砕けそうになりました。

楽しくも充実した済南市訪問でした。でも忘れてはいけません。この事業にどれだけの人が協力してくれたのか。見えないところで、家族、友人、先生をはじめ、たくさんの方が応援してくれていたことを。これからも青少年交流事業を続けていくためにも、自分の中だけで思いを完結させることなく、次の訪問団のために、未来へ向かって、地域へ向かって、学校の仲間に向かって、家族に向かって、大きな声と笑顔と大げさな身振り手振りでたくさんのことを伝えてください。

大黒柱となって訪問団を支えてくださった藤田辰夫先生、博学多才で通訳として参加していただいた吉松高敏さん、日本語を自由自在に操る済南市外事弁公室の祝恒さん、上海空港や南京緊急着陸の事態にアドバイスをくれた上海ガイドの李民徳さん、事前研修で山東料理のことを教えてくださった張静さん、サポートしていただいたご家族のみなさん、本当にありがとうございました。辰年生まれのしし座男子は、龍の踊る春節の中国へ、最高のメンバーで、最高の思い出ができました。



濟南の友人へ、謝謝メッセージ

有縁千里来相会
 千里の距離を短くする
 吉松高敏

言葉が通じなくても
 伝えたいという心があれば
 伝わりを感じました。
 また行きたいです。
 清水彩

いろいろな体験が
 できて、楽しかったです。
 また行きたいです。
 有間仁香

また中国に行って
 日本のことを教えられ
 るように、なりたいと思
 います。楽しかったです！
 北原 夏菜子

たくさん中国のことを
 知ることができました。
 行きたいです。
 眼鏡



中国と日本の関係を
 より良くすることが
 できました。上田未来

もう一度中国に
 行きたいです。
 上田航

テレビで見えて
 いた中国を身近に感じ
 られてよかったです。
 また中国に行きたいです。
 古谷陽弥

とても有意義な
 時間になりました。
 馬木敬正

とても楽しい5日間でした。
 中国の文化・生活を体験
 して日本のよさを改めて感じ
 ました。今度はもっと中国語が
 話せるようになってから
 行きたいです。古谷優

お世話になりました。(敬称略)

済南市経五路小学校	校長	閻莉
済南市経五路小学校	副校長	張成燕
済南市経五路小学校	教務処副主任	李麗
済南外国語学校	校長	蘇旭勇
済南外国語学校	副校長	崔洪璋
済南外国語学校	国際部主任	石涛
済南市人民政府外事弁公室	副主任	劉艶秋
済南市人民政府外事弁公室	亜非処処長	龐龍
済南市人民政府外事弁公室	亜非処副処長	郭依坤
済南市人民政府外事弁公室	亜非処	祝恒
済南市人民政府外事弁公室	亜非処	杜姍珊
山口県国際交流員		張静
日本旅行 山口支店長		平野 喜隆
日本旅行 山口支店		大下 敬之
日本国際旅行社有限公司	ガイド	李徳民
山口市 訪問団9人のご家族の皆さん		



龐龍さん(中央) 祝さん(右)



山口県国際交流員の張さん



日本旅行大下さん



日本旅行山口支店長平野さん



ガイドの李さん



済南外国語学校の担当者



経五路小学校の担当者
(一番手前は、藤田先生)

編集後記

○未来の山口市を担うベストメンバー。キャプテン彩さん、ヘッドコーチ未来君、エース優季さん、アタッカー夏菜子さん、フィジカルコーチ敬正君、スコアラー仁香さん、リードオフマン航君、スラッガー芽生さん、ムードメーカー陽弥さん。(藤田監督、吉松部長。) ホームビジットのことを忘れそうになったら、この訪問記を開いてください。

○言葉の壁や文化の違いに、不安や戸惑いを感じることもありました。それ以上に楽しいことやうれしいことが多く、毎日が驚きと発見の連続でした。困ったときには、仲間がお互いに手を差し伸べ、いつもみんな笑顔で過ごすことができました。山口市を離れ、家族から離れて初めてわかること、私たちは一人で生きているのではないということ。支えてくれている友達、そして温かくむかえてくれる家族のありがたさも身に染みた5日間でもありました。

○このメンバーで、また行きましょう。異国の地で私たちを待っている友人や家族のところへ。

○泉水の美しいまち**済南**へ、また行きなさい、何度でも。

「また会いましょう。再見。」

(プレーイングマネージャー眞砂)

